

社会福祉法人 長野県社会福祉協議会

「福祉だより信州」は共同募金の
配分金で発行されています。

第800号

令和4年10月25日発行

(毎月25日発行)

福祉だより 信州



社会福祉 HERO'S vol.26

詳しくは巻末をご覧ください。

No.

800

2022 11月号



特集

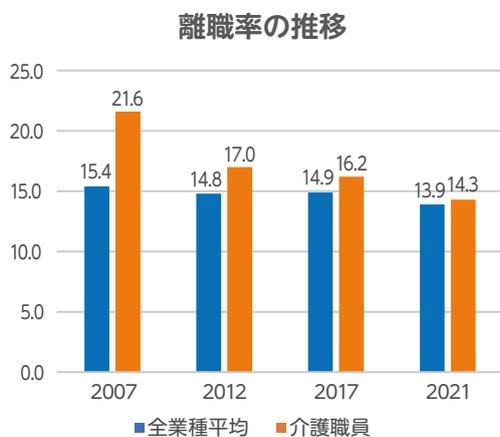
未来の福祉・介護人材確保に向けて
協働による福祉を支える人を
『育てる・支える』取組を

未来の福祉・介護人材確保に向けて

協働による福祉を支える人を 『育てる・支える』取組を

福祉・介護業界の人材不足は長年の課題ですが、福祉事業者の取組により、魅力ある事業所が増えてきました。しかし、未来に向けて進路を考える若者や教育現場に十分伝わっていません。

未来を支える福祉・介護人材を増やしていくには、福祉・介護業界内外の協働した取組が求められます。



**働きやすい職場づくり」に
取り組む福祉・介護業界**

信州ふっころプラン（以下、「ふっころプラン」）では実践目標の一つに、「福祉を支える人を『育てる・支える』仕組みの充実」を掲げています。

特に2040年に向けてサービス需要が高まる介護の現場での人材不足は長年の課題です。2007年（平成19年）の介護職員の離職率は21・6％であり、全産業平均の15・4％を大きく上回り、職員の定着が大きな課題となっていました。この課題解決に向け、同年には国

からは新福祉人材確保指針が示され、「労働環境の整備」「キャリアアップの仕組みの構築」が重要であるとされました。

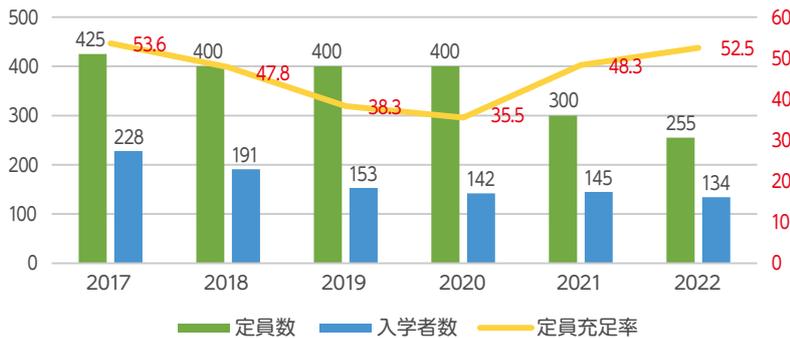
この後、福祉・介護事業所のキャリアパス構築や職場環境改善が進み、2021年（令和3年）には、コロナ禍にもかかわらず全業種平均とほぼ変わらない14・3％となり、働きやすい業界に変わってきたことが統計的にも明らかになっています。（厚生労働省「雇用動向調査」、公益財団法人介護労働安定センター「介護労働実態調査」から。）

介護の仕事を目指す 若者を増す取組を

しかし、職場環境改善が進み、離職率も改善されてきましたが、現場の人手不足感は解消していません。特に介護保険サービスでは63・0％の事業者が人手不足感を感じ、訪問介護事業所では、80・6％と非常に高い数値となっています。

さらに、今後の介護の現場を担う人材を養成する介護福祉士養成校の入学者の減少が深刻です。長野県内の介護福祉士養成施設の定

県内介護福祉士養成施設 定員・入学者数の推移



員数・入学者数の推移を見ても、この5年間で定員は150名、入学者数も100名近く減少しています。こうした状況を変えるため、介護の仕事を目指す若者を増やすさまざまな取組みが行われています。（長野県介護支援課提供資料から。ただし、長野県福祉大学校はこの統計に含まれていない。）

協働の取組による

介護の現状と魅力を発信

介護福祉士養成施設からは、「高校生が将来介護の仕事に就きたいと学校や親に相談しても、『やめておけ』と言われるケースがある」という声もあります。これは、教育関係者や保護者に、給与を含めた処遇や職場環境の改善など、これまでの介護業界の取組が十分に伝わっていないと思われれます。

こうした状況を変えていくため、福祉・介護の関係者が教育分野への働き掛けだけでなく、学校や教育委員会等と協働した取組が求められます。

長野県社協でもふつころプランに基づいた取組を福祉・教育関係者と共働して実施しています。

① 福祉で学ぶ！訪問講座

学校などで、福祉を題材とした「学び」をお手伝いする訪問講座を実施しています。単に、講師を派遣するだけでなく、その地域の福祉・介護事業所や職能団体と連携し、訪問講座実施先の学校の先生と一緒にプログラムを作成、実施しています。



② 「みらい産業福祉・介護 キャリアガイド」の発行

高等学校の先生をターゲットに、福祉・介護の仕事の魅力を伝えるパンフレットを作成、配布しています。理工系高校、進学校先生向けの他に福祉の仕事を巡る統計データを紹介するなど4種類作成しています。今後は社会福祉士会と協働してソーシャルワーカー紹介版など、内容を充実させていく予定です。

ふつころプランは、現在第2期に向け論議を進めています。福祉・介護人材の確保も引き続き重要なテーマであり、第1期の取組を振り返り、今後も協働による人材確保を進めていきます。

「ふくしのトビラ」をご活用ください

長野県社協「介護の仕事」アンバサダー、上条百里奈さんが出演する動画「ふくしのトビラ」をYouTubeで公開しています。上条さんは、中学生の頃、ボランティアに行った老人ホームで「介護のかわこさ」に気付き、先生や家族の「反対を押し切って(笑)」介護の仕事を選びました。今は介護福祉士として働きながら、大学講師や介護の魅力発信するモデルとしても活躍しています。

福祉・介護事業所の皆さまも、ご活用ください。



ロングバージョン
(10分)



ショートバージョン
※高等学校
進路指導先生向け
(6分)

ボランティア・市民活動振興の歴史 ～信州を耕す「団塊世代」の青春グラフィティ～

信州の地域福祉の源流として、公民館運動や農村医療の実践、保健師や保健指導員の活動があげられる。しかし、それらの伝統を現在のボランティア・NPO 活動につなげてきた、「団塊世代」の反骨精神と連帯力だった!?

Interview

小池 正志さん

Masashi Koike

公益社団法人長野県社会福祉士会 前事務局長
社会福祉法人長野県社会福祉協議会 元事務局長

1949年長野市(旧中条村)生まれ。東京都主税局に勤務しながら大学を卒業。
1975年から、長野県社会福祉協議会の職員として「ボランティア活動の振興」や「市町村社協支援・地域福祉推進」を担当。
2004年から長野県社会福祉協議会 事務局長
2013年から長野県社会福祉士会 事務局長



1970年代

福祉ボランティアの振興が 社協の重点事業に

1976(昭和51)年、全国ボランティア活動振興センターが開所し、福祉ボランティアの振興が社協の重点事業となりました。全国の社協マンの集まる会議では常に、「福祉」だけじゃない、『世直し』の気概が必要だ」と熱く語る小池正志さんの迫力のある声がありました。

小池さんは、東京都庁の職員から長野市にUターン。たまたま長野県社会福祉総合センターに職を得ました。当初の業務は、プラネタリウムの解説員でした。1975年、所属法人の合併で図らずも長野県社協の職員になりました。ボランティア振興を担当することになりました。

福祉の経験も知識もありませんでしたが、持ち前の反骨心と学生運動を経験した団塊世代らしいネットワークの力で、その後の信州の地域福祉を牽引することになります。

「やる気世直し手弁当」で 信州を耕す

当時はボランティア^{イニシャル}Ⅱ奉仕活動のイメージが一般的でした。しかし、ボランティアの世界は福祉だけではないと、1977年、長野市社協の小林博明さんらとともに公開講座「新寺子屋塾」を開講。小池さんは、「高度経済成長期、つまり1950年代後半から1970年代に、公害により住民へ大きな被害が発生した。薬害や農薬被害の救済とともに公害のない地域社会が必要であり、改善の

ために草の根の行動していくのがボランティア!」と檄を飛ばしました。

社協という当時小さな任意団体に、「ボランティア」精神で新しい社会を作っていく「確たる使命を打ち立てました。

1976年、第1回長野県ボランティアリーダー研修会(現在の「長野県まちづくりボランティアフォーラム」)を開催。翌年には、県下4会場で開催されたボランティアワークショップを開催。長野市社会福祉協議会では、サマーチャレンジボランティア(現在の「サマーチャレ」)をスタートさせました。

1980年代

島崎潔氏と国際障害者年

温和な丸顔に大きな体で車いすを駆使し、障がい当事者団体のリーダーとして活躍していた島崎潔さん(故人)は、ボランティアリーダーとしても、豊かなつながりをつくり、様々なバリアと闘っていました。

当時は、障がいのある子どもたちは小学校から「隔離」され、大人になると施設で暮らすことが一般的でした。車いすですれ違う人たちの視線が束になって襲ってきました。そんな時代の中で、1981年、



小池さんと島崎潔さん(右)

国際障害者年が定められ、障がいのある人たちが書いた詩にボランティアが曲をつけて歌う「わたぼうしコンサート」が、奈良からさわやかな風を運んできました。



全国ボランティア研究集會・信濃路集會

1987年、第18回全国ボランティア研究集會が松本市をメインに県内8会場をつないで開催されました。全23分科会で福祉、環境、公害、平和など多様な分野で活動するボランティアが集い、交流しました。

この時、実行委員長を務めた鎌田實さんを

信濃路縦断わたぼうしコンサートは、島崎さんが実行委員長となり、小池さんは事務局長として支え、イベントを仕切りました。福祉イベントは無料が当然とされた時代に、チケットを1500円で販売し、県内8会場で約1万人を動員。これを機に県内各地のボランティアリーダーや社協職員間のつながりを深めていきました。

1981年に長野県ボランティア活動振興センター（現・まちづくりボランティアセンター）設置。長野県ボランティア活動振興基金の果実をボランティアセンター設置やボランティアグループの活動助成に活用しました。

（現諏訪中央病院名誉院長）は、長野県ボランティア活動振興センター運営委員長も務め、ボランティア・地域活動の推進にも尽力した立役者です。

長野県のボランティア・地域活動の盛り上がりが全国に響き渡りました。

急激な人口の高齢化に、市町村社協の仲間とともに格闘

長野県の高齢化率は、1985（昭和60）年に10%を超え、現在の32・3%まで一貫して上昇を続けました。高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう在宅福祉の充実が大きな課題となってきました。

介護保険制度施行前、在宅介護の負担は「嫁」の役割とされる傾向がありました。介護者の負担をみんなで共有しながら、地域の支え合いの仕組みをつくっていくため、市町村社協の基盤強化が不可欠でした。

市町村社協は、1983年に法制化され翌年には、福祉活動専門員を配置する国庫補助事業がスタートしました。市町村社協の社会福祉法人化を推進することが、県社協の重点事業となりました。

特に、全国で2番目に市町村数が多い長野県（当時121市町村、現在77市町村）でしたが、人口1000人以下の下伊那地域の村々を訪問して村長はじめ村の三役にプレゼンして歩くなどした結果、法人化率は、1989年（平成元年）に80%、2000年（平成12年）に99%となりました

戸惑いながらも「事業型社協」を推進

1989年、厚生省（当時）は「ゴールドプ

ランを策定し、翌年、福祉関係八法が改正され、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、市町村を主体とした在宅福祉の推進が施策化されました。これによってホームヘルパーの増員、デイサービスの拡充などが一気に進みました。

地域課題は「福祉だけじゃない」と檄を飛ばしてきた小池さんは、戸惑いながらも、「世界に類のない急激な高齢化」に対応していくため、当時、全国社協が提唱した「事業型社協」の推進に取り組んでいきました。

1991年には厚生省の「ふれあいのまちづくり事業」がスタート。県単版の事業を含め、市町村社協にコーディネーターを配置して、ホームヘルパー等の公的サービスの充実と有償による地域の支え合い活動などの総合的な推進に取り組みました。

1990年代

「全国ボランティアフェスティバル」から「アートパラリンピック長野」へ

一方で、様々なイベントを通して、ボランティアと社協職員や行政職員が業務の枠を超えて協働活動を担い、ネットワークを広げ、人を育てる小池さんの持ち味は健在でした。

1995年には第4回全国ボランティアフェスティバル長野大会を開催。

1998年の長野五輪、パラリンピックと同時に、ボランティアとともに企画実施した、障がいのある人たちのアートをテーマとした非公式イベント「アートパラリンピック長野」を取り仕切り、「公式記録」にも足跡を残しました。

このイベントの事務局に臨時職員として雇

用された鈴木雅人さん（故人）は、イベントを契機に障がいの地域生活支援の仕組づくりに奔走。島崎さんとともに、「身体」「知的」「精神」と縦割りだった障がい者支援の包括化に現場からリーダーシップを発揮しました。

イベントでつながった人々の想いと力は、新しい世の中をつくる確かな原動力となりました。

2022年 大河へ

「イベント屋」と言われたこともありすが、「ネットワーカー」として、人と人をつなげて、「世直し」に貢献してきた自負があります。「団塊世代」を意識してきたことはありませんが、いわれてみれば、そこで培った反骨の精神と人と人をつなげる組織化の手法は、自分の原点と言えるのかもしれないと小池さんは振り返ります。

信州の地域福祉を作ってきた団塊世代のまさに「青春活躍劇」。その団塊世代が後期高齢者に至る2025年を控えて、改めて心に刻んだおきたいと思えます。

★1 長野県社会福祉総合センターは1972年に開所。「福祉推進の殿堂」としてライトアップされ、ロケットコーナーや県内初のプラネタリウムもあつた。県内の小学生は必ず「社会見学で訪問した」と言われる。小池さんは必ず「社会見学で訪問した」の解説員（自称「星の王子様」）だった。

★2 当時は「KKコンビ」と言われていた。

★3 小池さんは、長野県社協の事務局長等を務めた後、2009年度から再雇用で、広域圏を単位とした成年後見支援センター立ち上げに尽力。司法と福祉のつなぎ役としての役割を果たした。

もう一つの顔は、1992年11月に長野県社会福祉士会の立上げを取り仕切り、初代の副会長・事務局長。2013年度から9年間再度事務局長として社会福祉士会の基盤強化に貢献。

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
コチラ
(ふくしの保険ホームページ)



保険金額・年間保険料（1名あたり）

団体割引20%適用済／過去の損害率による割増引適用

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	【新設】特定感染症重点プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円			
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)			
	入院保険金日額		6,500円			
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円		
		外来の手術		32,500円		
	通院保険金日額		4,000円			
賠償責任	特定感染症	補償開始日から10日以内は補償対象外(*)			初日から補償	
	地震・噴火・津波による死傷		×	○	○	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)			
	年間保険料		350円	500円	550円	

*4月1日付で前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

<基本プランに加入される方へ>

基本プランでは、地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。

◆年度途中でボランティア活動保険に加入する場合には「特定感染症重点プラン」への加入をおすすめします。

例えば、被災地での災害ボランティア活動や当初予定していなかったボランティア活動への参加にあたり、新型コロナウイルス感染症をはじめとした特定感染症への備えとして、特定感染症重点プランに加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 ▶ 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 ▶ 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667
受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ21-10723より抜粋して作成)

令和4年度 社会福祉施設 総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険 検索

老人福祉施設、
障害者支援施設、
児童福祉施設などに

**スケールメリットを活かした割安な保険料で
充実補償をご提供します!**

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

① 基本補償(賠償・見舞)

保険期間1年

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
お見舞い等	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者 ▶ 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 ▶ 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667
受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)



プラン2 施設利用者の補償

プラン3 職員等の補償

プラン4 法人役員等の補償

新型コロナウイルスを含む特定感染症に新たな補償が追加されました!

NEW 施設の感染症対応費用補償

休業補償から各種対応費用までワイドな安心

- ① 休業や縮小営業による収益減少はもちろん、収益減少を防止・軽減するための人件費なども補償
- ② 消毒・清掃費用や自主的なPCR検査費用など、かかった費用を幅広く補償
- ③ 感染症対応特別費用で定額20万円を早期に受取り

(SJ21-12224から抜粋)

長野から静岡へ “地域とともに” 災害コミュニティソーシャルワーク実践中

令和4年9月23日から24日にかけて、静岡県中西部では台風15号により広域にわたる被害が発生しました。各地で災害ボランティアセンター（VC）が立ち上がる中、甚大な被害（床上浸水3,750棟*10/18現在）となった静岡市、災害VCの運営に、県を越えた支援が展開されています。

本県が所属する関東Bブロック社協は、静岡市の葵区災害VCへの職員派遣を行っており、本県からも1クール5日間、6回（予定）現地に駆けつけています。



静岡市災害VC (facebookより)
<https://www.facebook.com/shizuokashivc>

第1クール(10/3~7)：長野市社協 小野係長

長野県チームは、葵区災害VCの西ヶ谷サテライト（現地拠点）を担当しました。開設から1週間、混乱の中、全てを担っていた地元社協の負担を軽くするとともに、地元社協が地域にアウトリーチしてニーズキャッチできる体制を整えることを本クールのミッションとしました。



西ヶ谷サテライト 関ブロミーティング

支援が遅れている地域に先行して入っていたNPOと連携しながらミニサテライトを開設。最前線に拠点ができることで地域にボランティアや社協の顔が見え住民が支援を頼みやすくなり、自治会長等と一緒に動くことで埋もれがちなニーズにもつながりました。

私も同じく被災を経験した社協職員として、最前線で丁寧に地域に向き合おうと踏ん張る地元職員の思いや苦しみに寄り添うことを大切にしながら任務に当たりました。

第3クール(10/11~15)：南箕輪村社協 唐木次長

第3クールは、災害VC開設から時間が経過する中で、今後住民と一緒に復興を担っていく地元社協職員が、少しでも地域の中で活動が展開できるように支援することを目指しました。



油山ミニサテライト 自治会公民館使用

葵区災害VCでは、西ヶ谷サテライトの中に、油山、松野といった小地域単位を対象としたミニサテライトを設置しています。より住民に近いミニサテライトを設置することは、きめ細かい現地ニーズに即応するとともに、地域の中に一緒に混ぜてもらい、顔の見える存在として地域住民と一緒に復興を考え、寄り添いながら、ともにボランティアセンターを運営する重要な役割があると改めて実感しました。

今後も、被災地へ少しでも心が寄り添える支援活動を続けていきたいです。

本県では、3年前の台風19号の際に、発災直後から被災地域にサテライトを設置して、地域力・住民力を活かした災害VCの運営が行われました。また、その後の復興期の見守り相談支援事業で配置された生活支援相談員においても、被災者支援に加えて地域との関係性を大切に「災害コミュニティソーシャルワーク」の展開を継続し、被災者の生活再建や被災地域の創造的復興を支えてきました。

今回の静岡県での応援支援は、この「災害コミュニティソーシャルワーク」の視点が中心となって展開されており、本会では、この取組を災害時に限らず、「地域共生社会」につながる日常的な取組に活かされるよう研究していきます。

「災害コミュニティソーシャルワーク 研究会」に関するお問合せは
長野県社協 総務企画部企画グループ ☎026-228-4244



介護職に携わって20年ほどの延澤さん。
出身地の東京から長野市への移住を機に中途で入職した



良好な人間関係を大切に、管理する4ユニットの職員と積極的にコミュニケーションを図っている

WEBでも
ご覧になれます



信州福祉事業所認証・評価制度
については「信州福祉・介護のひろば」HPをご覧ください。

働きやすい職場づくりと育成で 職場全体の向上心と組織力がアップ!

特別養護老人ホーム
ふれあい荘 HP



特別養護老人ホームふれあい荘 (長野市)

介護施設の経営等の介護事業と、保育園運営による保育事業に取り組み、社会福祉法人新志福祉会。介護事業では、職員の仕事へのモチベーションや充実感が入居者の満足につながるの思いから、近年、給与制度やキャリアパス制度の改定、職員の待遇改善に力を入れています。キャリアパスは階層・等級ごとの業務内容と評価項目を明確化し、昇給・昇進に必要な条件が明瞭になったことで、職場全体の成長意欲が向上。目標管理シートの活用で役割も立候補制になり、特にケアマネの受験者数が大幅に増加しました。さらに、法人のブランド力向上のために信州ふくにんの認証も取得。昨年から新卒採用にも注力しています。

そうした中で、新人職員や実習の指導を担当しているのが、2015年に「ふれあい荘」に入職した延澤 聡さんです。4年前から介護係長に就任。現場の介護業務に加え、職員の育成・指導や研修の開催、勤怠管理等のマネジメント業務も行っています。

「心がけているのは、入居者一人ひとり

に寄り添ったケアをすること。そのためにも他職種で意見を出し合いケアプランを作り上げていきます。多くの職員が働く中で、全員が決まり事を理解して守ることは基本ですが、難しくもあります。その統一を図るのが係長の役割。そこで、まずは見られる立場として必ず皆と現場業務に取り組み、伝達網やケア記録も確認して、各職員の習熟度や理解度の把握に努めています。

その結果、他職種とも連携したケアの実践により、入居者に期待した効果が見られた時や、マネジメント業務と現場業務のバランスが取れ、ユニット内の人間関係が円滑に回っている時がやりがいだと話す延澤さん。採用面でも、介護福祉士の養成校と良好な関係を築き、自ら実習指導をした学生が入社した時は達成感を覚えると言います。

こうした働きやすい職場環境の構築と職員の育成を通じ、地域に必要とされる施設であり続けることが法人にとっても大きな目標です。



ざわめくアート

『この一木なんの木 気になる木』

段ボール箱、油性ペン

作者・篠沢 由浩 (ささざわ よしひろ) 51歳
軽井沢町在住

この一木 何の木 気になる木〜♪ 気持ちのいい野原に大きく枝を広げた大木の映像に合わせて流れる某電機メーカーのCMソング。ずいぶん昔から聞かれ、この曲が流れるとついつられて歌ってしまうのは私だけではないだろう。広く知られた国民的ソングだ。癒されるなあ。

段ボール箱のすべての面にこの歌詞が書かれ、別の箱にはこのグループ企業名がびっしり書かれている。そういえばこのCMには歌とともにグループ企業名が流れるように映し出されてもいる。篠沢さんはこの映像をしっかり記憶しており、それらを箱に書き出している。多分彼の心の中にはこの「この一木…」の歌も流れているのだろう。

自閉症スペクトラム障害のある篠沢さんはいつもの何かにせつつつかれているように、先の予定が気になって仕方がない。何度も何度も確認する。そして不安が高まると記憶にあるこの文字を書きまくることで心を落ち着かせているようでもある。彼にとっても大事な癒しの木なのだ。彼が暮らす施設にはこの箱が多量に保管されている。

(ながのアートミーティング 取材)

●ご感想、お問合せ、
掲載希望等は下記へ
お寄せください。

長野県社会福祉協議会
総務企画部 企画グループ
TEL 026-228-4244
FAX 026-228-0130
E-mail kikaku@nsyakyo.or.jp

webでもご覧になれます

長野県社会福祉協議会 福祉・介護べり帖



長野県福祉研修
共同サイト
きやりあねっと

信州福祉・
介護のひろば

